

| 鳴門市第二中学校 |     |     |     |      |     |     |
|----------|-----|-----|-----|------|-----|-----|
|          | 1年  | 2年  | 3年  | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数      | 3   | 3   | 4   | 1    | 11  | 23  |
| 生徒数      | 106 | 110 | 125 | 5    | 346 |     |

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

|                       |
|-----------------------|
| 生徒の学習意欲につながる指導方法の工夫改善 |
|-----------------------|

2. 研究内容と方法

実施学年・教科

全学年・全教科・全職員

新学習指導要領の基本的なねらいは、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成することにある。しかし、「生きる力」を育成するためには、教科指導において「確かな学力」を充分身に付けておかなければならない。

本校では昨年度「生きる力につながる基礎・基本の徹底」というテーマで全教科において基礎本の研修を行ったが、学力の向上のためには生徒一人一人の学習への「意欲」が大きな要素をもっているを痛感した。そこで、本年度は、上記テーマを設定して全教科で取り組むこととした。

少人数指導(TT指導)や読書指導、早朝学習や放課後学習を実施しながら学習単元の基礎基本の徹底や個に応じた指導などそれぞれの教科の特性に応じて実践していくこととした。

研修内容

基礎・基本の徹底

・生徒たちの学習状況を理解し、個別指導・グループ指導の徹底により、基礎的・基本的内容の定着を図り確かな学力を育てる。

個に応じた指導

・生徒の多様な考え方を引き出し認めることにより、個に応じた学習のねらいが達成できるようにする。

教材教具の工夫開発

・個々の教師が持っている専門性や経験などの情報交換を図り、教材・教具を工夫開発したり互いの特性を高め合ったりすることによって、より効果的な指導を行うことができる。

(2)年次計画

平成14年度

○テーマ:生きる力につながる基礎・基本の徹底

○仮説:生きる力を育むためには、それぞれの教科において確かな学力を身に付けなければならない。

○研究内容・方法

アンケートや基本テストなどで生徒の実態を知る。

各教科において「生きる力」につながる基礎・基本について重点事項を探る。

「確かな学力」を育むための教材開発や指導方法の工夫を研究する。

平成15年度

○テーマ:学習意欲につながる指導方法の開発

○仮説:生徒の学習意欲の向上が学力向上につながる。

生徒の学力向上が学習意欲の向上につながる。

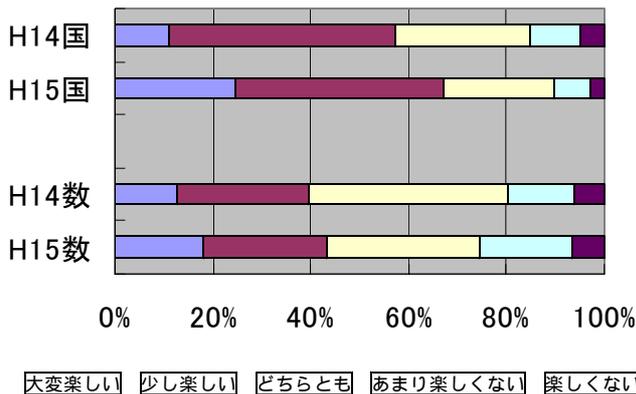


本校では、1・2年生において毎年6月、標準学力検査を実施している。本年度の2年生と3年生が、それぞれ2年間で偏差値平均がどのように変化したかを比較した。

1年と、2年では学習内容も違うのでこの結果をすぐに判断することは問題があるかもしれないが、「基礎・基本を徹底して指導」した平成15年度の結果が平成14年度の結果(上昇の程度において)がわずかであるが良くなっている。このことに意を強くして本年度も研究実践を推進することとした。

生徒の意識調査(基礎学力調査より:7月実施 学年:2学年)

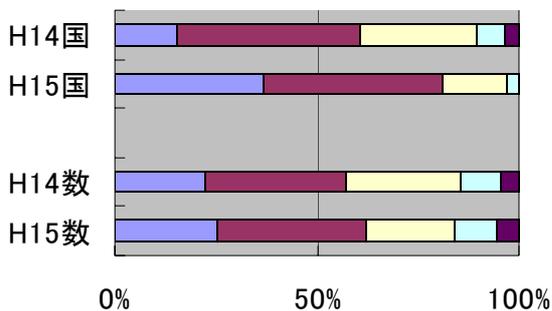
○授業は楽しいですか。



2年生だけの調査であり、対象生徒も異なっているが、国語で、「授業が楽しい、少し楽しい」と答えた生徒は、H14で57%、H15で67%と増えている。数学では、H14が39% H15が43%と増えている。国語も数学も基礎・基本が理解できると授業への興味や関心も増すものと判断し、さらに継続研究を進めることとした。

ただ、「あまり楽しくない、楽しくない」が、国語では減少しているが、数学では増加している。こうした生徒への対応をさらに研究することとした。

○授業はどの程度分かりますか。



「よく分かる、だいたい分かる」の合計は、国語では、H14で61%、H15で81%、数学では、H14で57%、H15で62%といずれも増加している。また、分からない生徒については、国語で減少しているが、数学では増えている。このことから「授業が楽しい」ということと「授業内容が分かる」ということは連動しているということが分かる。他の教科においても同様であると考えられる。そこで、本年度もこのことを念頭において研究を進めた。

よく分かる だいたい分かる 半々くらい 分からないことが多い ほとんど

#### 少人数指導

1年 数学・英語(週3時間のうち1時間)

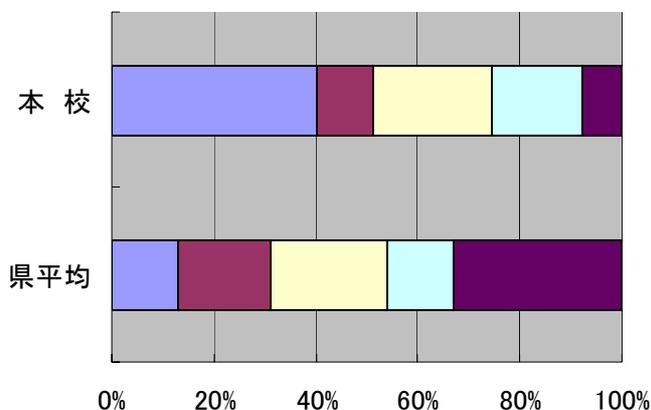
2年 数学(週3時間のうち1時間) 等質学級で実施

- ・小人数指導では、教師1人あたりの生徒数が少ないため、生徒の学習活動が把握しやすく机間巡視等により一人ひとりのつまづきや時間をかけることができやすく、理解の遅れている生徒への個別指導や援助がより可能である。
- ・少人数であるためか、生徒が教師に質問しやすく、基礎・基本の徹底など、学習効果が大きかった。
- ・人数が少ないためか、和やかな雰囲気が感じられた。
- ・クラスを半分に分けたただけの一斉指導であったため、生徒の興味・関心をより引き出せるような工夫の必要性を感じた。少人数指導の良い点を生かせるような効果的な指導方法等を考えていきたい。

- ・生徒の実態を考慮しながら、きめ細かな実践を積み重ねていきたい。

## 読書指導

読書時間調査( H 1 4 基礎学力調査より：2 年生 )



昨年度の調査により、読書時間が10分未満のものが51%、県平均31%と比べると格段に多く、1時間以上読書しているものも8%、県平均33%に比べると、大変少なかった。そこで、読書の習慣を付けるために3年生で放課後一斉読書の時間を設け、読み聞かせや自主読書をやらせた。

時間(分) 0 10分以内 10~30分 30~60分 60分以上

## 生徒の感想

- ・教室が静かだと心が落ち着くような気がする。
- ・本を読んでいると10分間が短く感じた。
- ・「だからあなたも生き抜いて」を読んで、感動した。私も頑張ればやれるかもしれないと思った。
- ・友だちや家のことで嫌なことがあっても、本を読んでいるとそんなことがたいしたことでないと思うことがある。
- ・勉強の疲れが読書で取れるような気がする。
- ・試験の前などは、気になって本に集中できないときがある。

## 放課後学習

毎週火・木曜日に学習補充として「質問コーナー」を開設し、空き教室で実施している。指導はそれぞれ学年団で交代で実施している。生徒の自主参加であるが教師が勧誘するときが多い。定期テスト前や実力テスト前などには多くの生徒(20名ぐらい)が参加するそうでないときは少ない。テスト終了後などは、学習内容が十分達成されていない生徒について教科担任が勧誘している。少人数で個人的に指導されることにより教室学習で十分分からなかったところが理解できたと喜んでいる生徒も多い。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度は、過去3年間のまとめとして成果を文書で報告する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】       3学級以下       4～6学級  
                          7～9学級       10～12学級  
                          13～15学級       16学級以上
- 【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導  
                          その他
- 【研究教科】       国語       社会       数学       理科  
                          外国語       音楽       美術       技術・家庭  
                          保健体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無